

最期のわがままと最期の孝行



訪問看護ステーション一心管理者
看護師 根岸 勝

入院すると家族と会えない事が多く「自宅で療養する」「自宅で最期を過ごしたい」という方が増えますが入院治療を余儀なくされる方は少なくありません。

自宅に帰りたい気持ちと不自由な身体で迷惑を

掛けたくないとの思いから最期のわがままとを言葉に出す事を躊躇するご本人。最期のわがままとに伝えてあげたいが状態変化への対応に不安を抱える家族。医療者がいない療養は最期のわがままと、最期の孝行の妨げにもなります。

「住み慣れた自宅で安心して過ごしたい」という思いは誰もが抱く希望です。みんなで思いを共有して下さい。抱え込まずに助けてと声をあげて下さい。専門職に気持ちをぶつけて下さい。「家で暮らす」というその思いや不安な気持ちに寄り添ってくれる方が安中市には必ずいます。

人生の最期まで自分らしく生きる

看取りとは「人生の最終段階において無理な延命治療などをせずに自然に亡くなっていく過程を見守ること」とされています。

在宅での看取りは、ご家族、医師や看護師、ケアマネジャー、ホームヘルパー等との連携が大切になります。

今少しづつ在宅医療の体制が整備されていますが、多くの場合は死が避けられない状況になり初めて本人、もしくはご家族がどのように人生の最期を過ごすか話し合う事が多く、在宅での看取りを難しくしています。

身体的、精神的な変化や社会的状況等により本人、ご家族の意思は変化していきます。本人を主体に、そのご家族や近い人、医療・ケアチームが、健康状態や生活状況が変わるごとに繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援することが大切です。

自分自身が人生の最期をどう過ごしていくか一度考え、親しい人と話し合ってみてください。



一般社団法人安中市医師会
地域包括ケアシステム担当理事
さるや内科医院
院長 猿谷 忠弘

看取りを支える専門職たち

大切な人がなくなるということ

私が担当していた方が脳出血となり意志を表現できなくなりました。今後の生活をどのように送るかについてご本人の性格、思考を考慮しながらご家族、医師、訪問看護師、各事業所と何回も話し合いましたが、正解のない答えを出すのは、非常に難しくご家族は大変悩まれていました。

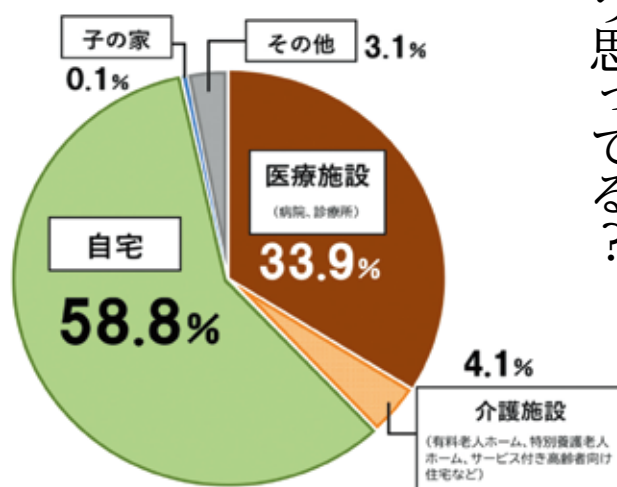
ご本人が意思表示できる時に「人生の最期の時の過ごし方」を話し合っておくことができていると、ご家族の迷いも減りサポートさせていただく私達専門職もご本人の意向に寄り添ったケアが行いやすくなります。



碓氷安中ケアマネの会 副会長
松井田居宅介護支援事業所せせらぎ
管理者 横坂 由美子

「人生最期の時の過ごし方」は、迷いながらでもいいと思います。今、決めなくてもいいと思います。私たち専門職との話し合いで人生最期の時の過ごし方の参考にしていただければ幸いです。

Q.あなたは、死期が迫っていると分かったときに、人生の最期をどこで迎えたいですか。(67歳～81歳当事者)



出典：2021.3.21 人生の最期の迎え方に関する全国調査(日本財団)

みんなどう思ってる？

問合せ ▶ 碓氷高齢者支援課地域包括支援センター (☎内線2157)